

令和5年度釧路市立北中学校「学校評価『教職員アンケート』」

【結果分析】

4：している 3：どちらかといえばしている 2：あまりしていない 1：していない

	評 価 項 目	4	3	2	1
1	私は、学校経営理念（「生徒を育てる学校」から「生徒が育つ学校」へ）の実現を常に意識し、当事者意識をもって各種実践や業務に取り組んでいる。	36.4%	63.6%	0.0%	0.0%
2	私は、目指す生徒の姿（自分の足で立ち、自分の頭で考え、他者と対話し協働できる生徒）の実現を常に意識し、日常の授業改善や分掌業務、学級経営等に取り組んでいる。	54.5%	45.5%	0.0%	0.0%
3	私は、生徒が4つの力（人を大切にする力、自分の考えをもつ力、自分を表現する力、挑戦しやり抜く力）を獲得するよう、日常の授業改善や分掌業務、学級経営等に取り組んでいる。	59.1%	40.9%	0.0%	0.0%
4	私は、「生徒が主語」となる授業（行事）の実現を目指すため、不断の授業（行事）改善を推進している。	47.1%	47.1%	5.8%	0.0%
5	私は、生徒が「学びの自己調整力」を発揮しながら家庭学習を推進できるよう仕掛けている。	12.5%	37.5%	43.8%	6.2%
6	私は、生徒が「学びの自己調整力」を発揮しながら生活習慣を確立できるよう仕掛けている。	29.4%	47.1%	17.6%	5.9%
7	私は、「授業で勝負できる教師」の実現を目指すため、積極的に校内研修に参加している。	35.3%	52.9%	11.8%	0.0%
8	私は、生徒指導の実践上の視点（自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成）を取り入れた学級経営を推進している。	37.5%	43.8%	12.5%	6.2%
9	私は、学級経営において学級経営計画を活用し、検証改善サイクルを確立している。	6.3%	62.5%	25.0%	6.2%
10	私は、互いが適度に依存し合うこと（自律）を目指した通常学級と特別支援学級の交流を図っている。	6.7%	68.8%	18.8%	6.7%
11	私は、学校における働き方改革の趣旨を理解している。	45.5%	54.5%	0.0%	0.0%
12	私は、当事者意識をもって業務改善を推進している。	45.5%	36.4%	18.1%	0.0%
13	本校は、独自の「アクションプラン」を策定している。	36.4%	63.6%	0.0%	0.0%
14	本校は、コアチームによる不断の業務の見直しが図られている。	45.5%	45.5%	9.0%	0.0%
15	私は、活動方針を踏まえて部活動を実施している。	46.7%	33.3%	20.0%	0.0%
16	本校は、部活動の地域移行に向けた情報を発信している。	9.1%	27.3%	40.9%	22.7%
17	本校は、学校DX（ICTを活用した授業改善、業務改善、保護者等との情報の連携・共有）を推進している。	31.8%	63.6%	4.4%	0.0%
18	本校は、ICT活用力の向上を図るコアチームによる定期的な研修を実施している。	18.2%	31.8%	50.0%	0.0%
19	本校は、ねらいを明確にして組織的に「小中ジョイントプロジェクト」を推進している。	72.7%	27.3%	0.0%	0.0%
20	本校は、「地域で目指す生徒の姿」を明確にして「地域とともにある学校」づくりを推進している。	36.4%	63.6%	0.0%	0.0%

21	本校は、学校経営参画意識の醸成を図る戦略的な学校評価が実施されている。	31.8%	59.1%	9.1%	0.0%
22	私は、登校に困り感を抱える生徒の学びを保障している。	9.1%	50.0%	36.4%	4.5%
23	本校は、登校に困り感を抱える生徒の社会的復帰に向けた支援を行っている。	27.3%	45.4%	27.3%	0.0%
24	私は、生徒が道徳的实践力を獲得する道徳教育を推進している。	11.1%	72.2%	11.1%	5.6%
25	本校は、豊かな心を育む読書活動を推進している。	36.4%	54.5%	9.1%	0.0%
26	本校は、いじめや災害等に対する危機意識の醸成を図る各マニュアル等の不断の見直しが図られている。	18.2%	63.6%	18.2%	0.0%

#### 【学校改善のアイデア】

- 夏季休業期間中に実施する「プレスト」において、今後の本校の在り方について共有したい。
- 地震や火災等の災害時における避難経路を可視化する。
- 登校に困り感をもつ生徒の居場所を校内につくるとともに、専任の教員を配置する。また、遠隔システム等を活用して、学びの保障等の充実を図る。
- 職員室内の心理的安全性を今以上に醸成させ、個業より協業を優先する体制を整備する。

#### 【改善の方向性】

- 5・6 家庭における学習習慣と生活習慣の確立について、一体的に捉えることとします。その上で、生徒が家庭学習（家庭において、自分で課題等を設定し主体的に取り組む学習）に対して、自分でPDCAを回すことができる方策を検討します。
- 9 定期的にアンケート等を実施し、生徒の姿から学級経営計画を見直します。特に、学級目標の達成状況や、学級目標の実現に向けた戦略を明確にします。
- 10 特別支援学級における日常の授業の実施について、全ての教員が関われる体制を整備するとともに、教科の専門性を生かした授業内容を提供します。また、交流・共同学習のねらいについて全教職員で再確認します。
- 16 国は今年度から2025年度までの3年間で「改革推進期間」と定めて、まずは休日の部活動移行を進めることとしています。国の動きに連動して、道や市も何らかの方策等を示すことが想定されることから、教職員はもとより保護者等へも情報を発信していきます。
- 18 早急に「ICTコアチーム」を編制し、定期的なミニ研修等の実施を計画します。
- 22 登校に困り感を抱える生徒の学びの状況を把握し、その状況や要望等を踏まえて、学びを保障する方策（端末の活用、教材の配付等）を検討します。また、当該の生徒が登校したときの居場所と支援体制等についても検討します。
- 24 「特別の教科 道徳」の授業について、発問の開発の仕方や、基本的な授業の展開について共通理解を図ります。そのために、道徳教育推進教師を中心とした研修を実施します。
- 26 各マニュアルについて、関係の分掌等において点検を実施します。また、災害時における避難経路の可視化について実施の方向で検討します。

※ 「番号」については、質問項目を示しています。